

2025年難関大学入試英語の概要

難関大入試で求められる英語力の傾向と概要

1 学期講習

第 3 回

2025年一橋大学



英語科講師 岡本眞一郎

令和7年6月21日（土）

<大問分析>

II	読解総合	「動物にも意識はあることを示唆する新たな研究」(728 words)	文法的に下線部と同じ用法の語を選ぶ問題が2題(同格を導く接続詞 that および疑問形容詞 what)、空欄補充が合計7か所(そのうち前置詞が4か所)、語句整序3題の、オール客観式。2024 年度に続いて内容一致問題が含まれていないため、文章全体ではなく設問前後の構造と内容を部分的に把握することで解答できる、比較的解きやすい問題も含まれている。5は、関係詞節の前提となる文は they appeared to enjoy rolling small wooden balls as entertainment 「ハチは小さな木のボールを転がすことを遊びとして楽しむように見えた」。 《出典》 Pallab Ghosh, “Are animals conscious? How new research is changing minds”, <i>BBC InDepth</i> , June 16, 2024	やや易
----	------	------------------------------------	---	-----

第1パラグラフ

Charles Darwin enjoys a near god-like status among scientists for his theory of evolution. But his ideas ⁽¹⁾ that animals are conscious in the same way humans are have long been ignored. Until now. “There is no fundamental difference between man and animals in their ability to feel pleasure and pain, happiness, and misery” Darwin wrote. But his suggestion {that animals think and feel} was seen as an unorthodox idea among many, (A) most animal behavior experts. The argument went that projecting human traits, feelings, and behaviors onto animals had no scientific basis and there (あ) animals’ minds.

チャールズ・ダーウィンは進化論によって、科学者たちの間でほとんど神のような存在とされている
しかし、「動物も人間と同じように意識を持っている」という彼の考えは、長い間無視されてきた。
人間と動物の間に、快楽や苦痛、幸福や不幸を感じる能力において、本質的な違いはない。
しかし、「動物は思考し、感情を持つ」という彼の主張は、多くの
大半とまでではないが、動物行動学の専門家の間では、正統とは言えない異端の考えと見なされていた。
その主張は～というものだった
人間の特性や感情、行動を動物に当てはめることには科学的な根拠がなく
動物の心の中で何が起きているのかを検証する方法もない

Scramble英文法

- ☐ 473 My brother loves baseball. He's an enthusiastic, () not a gifted, player.
- ① as ② if ③ or ④ so (センター)

473 **A, if not B** 「**B** とは言わないまでも **A** / **B** でないにしても **A**」

- ▶ A, B には通例, 名詞, 形容詞, 副詞が来る。
 - ▶ 本問の場合, 挿入されている () not a gifted の () に ② if を入れれば, if not a gifted (player) = if he is not a gifted (player) 「天賦の才能がある (選手) とは言わないまでも」の意味になり, 文意が通る。
 - ▶ 本問は, 主節の主語 He (= My brother) と if 節の主語は一致している。
- 発展** **if not** には「もしそうでなければ」の意味もある。

I hope Anna passed the exams. **If not**, she'll have to repeat her senior year. [If not = If Anna did not pass the exams]
(アンナが試験に受かっていたらいいのだが。もしそうでなかったら, 最高学年をやり直さなければならないだろう) (関西学院大)

第2パラグラフ

But if new **evidence** emerges **of** animals' abilities to feel and process
しかし、もし動物が周囲で起きていることを感じ取り、理解する能力を持つという新たな証拠が現れれば、
what is going on (ア) them, **could that mean they are, in fact,**
それはつまり、実際に彼らが「意識を持っている」ことを意味するのだろうか？
conscious? We now know that bees can count, recognize human faces,
私たちは今、ハチが数を数えたり、人間の顔を認識したり、道具の使い方を学んだりできることを知っている。
and learn how to use tools. Prof. Lars Chittka has worked on many of
the major studies of bee intelligence. “If bees are (イ) **that** intelligent,
ラース・チトカ教授は、ハチの知能に関する主要な研究の多くに携わってきた。
maybe they can think and feel something, which are the basic
もしハチがそれほど知的であるなら、もしかすると彼らは何かを「考えたり」「感じたり」できるのかもしれない
components of consciousness” he says. Prof. Chittka's experiments
それは意識の基本的な構成要素である。
showed that bees would modify their behavior following a traumatic
ハチは心的外傷となる出来事のあとに行動を変え、小さな木のボールを転がして遊ぶことができるように見えた
incident and seemed to be able to play, rolling small wooden balls,
その遊びを彼らは娯楽として楽しんでいるようだった
(い) entertainment.

第3パラグラフ

These results have persuaded one of the most influential and
respected scientists in animal research to make this strong, stark, and
controversial statement: “(B) all the evidence that is on the table,
it is quite likely (Ⅱ) that bees are conscious”.
提示されたすべての証拠を考えると
ハチが意識を持っている可能性はかなり高い

第4パラグラフ

It isn't just bees. Many say that it is now time to think again, (イ)
the emergence of new evidence they say marks a dramatic change
in thinking on the science of animal consciousness. They include Prof.
Jonathan Birch. “We have researchers from different fields starting
to dare to ask questions about animal consciousness and explicitly
think about how their research might be relevant to those
questions” says Prof. Birch.

新たな証拠の出現とともに

彼らは、それが動物の意識に関する科学的思考において劇的な変化を示していると言っている。

彼らの中にはジョナサン・バーチ教授も含まれている。

私たちは今、さまざまな分野の研究者たちが、動物の意識に関する問いをあえて投げかけ始め、そして自分たちの研究がその問いにどう関係するのかをはっきりと考え始めている状況にある。

第5パラグラフ

Anyone looking for a sudden breakthrough will be disappointed.

突然の大発見を期待している人は、がっかりすることになるだろう。

Instead, a steady growth of evidence for a rethink has led (ウ)

その代わりに、考え直すべきだという証拠が着実に増えてきたことで、

conversations among the researchers involved. Now, many want a

関係する研究者たちの間で議論が生まれるようになった。

change in scientific thinking in the field. What has been discovered

may not amount to conclusive proof of animal consciousness, but

発見されたことは、動物の意識を決定的に証明するものとは言えないかもしれない。

taken together, it is enough to suggest that there is “a realistic

possibility” (Ⅲ) that animals are capable of consciousness, according

to Prof. Birch.

しかし、総合的に見れば、それは「動物に意識があるという現実的な可能性はある」と示唆するには十分だと、バーチ教授は述べている。

第6パラグラフ

This **applies not only to** what are known as higher animals such as
これは、チンパンジーやイルカのように、他の動物よりも発達の進んだ段階に達しているとされる
apes and dolphins who have reached a more advanced stage of
いわゆる高等動物にだけ当てはまるわけではない。
development than other animals. It **also applies to** simpler creatures,
それはまた、ヘビ、タコ、カニ、ハチ、さらにはショウジョウバエのような、より単純な生き物にも当てはまる
such as snakes, octopuses, crabs, bees, and possibly even fruit flies,
according to the group, who want funding for more research to
そのグループによれば、彼らは動物に意識があるかどうか、
determine whether animals are conscious, and **if so, to** ⁽²⁾**what**
そしてもしあるなら、それがどの程度かを明らかにするためのさらなる研究の資金提供を求めている。
extent.

第7パラグラフ

But if you're wondering (Ⅳ) what we even mean by consciousness,

しかし、私たちが「意識」という言葉で何を意味しているのか疑問に思っているなら、
you're not alone. It's something ^ scientists can't even agree (エ).

あなただけではない。それは科学者たちでさえ合意できていないものなのだ。
Some are very critical of some uses of the word consciousness. “The

意識という言葉の使い方について、非常に批判的な人もいる。
field is full of misleading vague terms and unfortunately one of those
この分野には、人を誤解させるような曖昧な用語があふれており、残念ながらその1つが「意識」という言葉なのだ。
is consciousness” says Prof. Stevan Harnad. “It is a word that is

それは多くの人に自信たっぷりに使われる言葉だが、
confidently used by a lot of people, but they all mean something

different, and so it is not clear at all (Ⅴ) what it means”.

皆がそれぞれ違う意味で使っているため、その言葉が何を意味するのかは、はっきりしていない。

第8パラグラフ

Others who have been instinctively doubtful of the idea of animals
動物に意識があるという考えに本能的に疑いを持ってきた他の人たちは、
being conscious say that (う) conscious makes a difference. Dr.
「意識がある」とはどういうことかという解釈をより広く捉えることが、違いを生むと述べている。
Monique Udell, who was trained as a behaviorist*, says, “If we look
モニック・ユーデル氏は、行動主義者として訓練を受けた人物であり、次のように述べている
at distinct behaviors, for example (VI) what species can recognize
もし私たちが、たとえば、どの種が鏡に映った自分を認識できるか」「どれだけの種が将来を計画できるか、
themselves in a mirror, how many can plan ahead or are able to
あるいは過去に起きたことを記憶しているか」といった明確な行動に目を向ければ、
remember things that happened in the past, we are able to test
these questions with experimentation and observation and draw
そうした問いは実験と観察によって検証することができ、データに基づいてより正確な結論を導き出すことができる。
more accurate conclusions based on data.



第8・9パラグラフ

And if we are going to **define** consciousness **as** a sum of measurable behaviors, then animals that have succeeded in these particular tasks can be said to have something (Ⅶ) **that** we choose to call consciousness".

「そして、もし私たちが意識を“測定可能な行動の総体”として定義するなら、これらの特定の課題を達成した動物たちは、私たちが“意識”と呼ぶことを選んだ何かを持っていると言うことができる。

This is a much narrower definition of consciousness than the new group is promoting, but a respectful clash of ideas is (Ⅷ) **what** science is all about, according to Dr. Udell.

これは、新しい研究グループが提唱している意識の定義よりも、はるかに狭い定義である
しかし、Udell博士によれば、意見の敬意ある衝突こそが科学の本質だという

第10パラグラフ

Kristin Andrews, a professor of philosophy specializing in animal
動物の心を専門とする哲学教授のクリスティン・アンドリュース氏や多くの科学者たちは、
minds, and many other scientists believe that research on humans
and monkeys is the study of higher level consciousness — exhibited
人間やサルに関する研究は、「高度な意識」の研究であり、
in the ability to communicate and feel complex emotions — (C)
それはコミュニケーション能力や複雑な感情を感じる力に現れていると考えている。
an octopus or snake may also have a more basic level of
タコやヘビにも、私たちがまだ調査していないために見過ごしている、より基本的なレベルの意識があるかもしれない
consciousness that we are ignoring by not investigating it.

1 下線部(1)と同じ用法の that を本文中の波線部(I)(II) **III** (VII)から一つ選び、そのローマ数字を解答欄に書きなさい。

2 下線部(2)と同じ用法の what を本文中の波線部(IV)(V) **VI** (VIII)から一つ選び、そのローマ数字を解答欄に書きなさい。

3 空欄(A)—(C)に入れるのに最も適した語句を次の中から一つ選び、その記号を解答欄に書きなさい。

- | | | | | | | | |
|-------|-------------|---|---------|----------|---------|----------|-------------|
| (A) イ | although | □ | at best | ハ | if not | ニ | nonetheless |
| (B) イ | Apart from | □ | But for | ハ | Despite | ニ | Given |
| (C) イ | if and when | □ | in case | ハ | unlike | ニ | whereas |

4 空欄(あ)に入れるものとして、以下の語を最も適切な順に並べ替えたとき、3番目と6番目に来る語の記号をそれぞれ解答欄に書きなさい。

イ goes □ in ハ no ニ of ホ on
ヘ testing ト was チ way リ what

トwas ハno **チ**way ニof ヘtesting **リ**what イgoes ホon □in

5 空欄(い)に入れるものとして、以下の語を最も適切な順に並べ替えたとき、3番目と6番目に来る語の記号をそれぞれ解答欄に書きなさい。

イ appeared □ as ハ enjoy
ニ they ホ to ヘ which

ヘwhich ニthey **イ**appeared ホto ハenjoy □as

6 空欄(う)に入れるものとして、以下の語を最も適切な順に並べ替えたとき、3番目と6番目に来る語の記号をそれぞれ解答欄に書きなさい。

イ be □ broader ハ interpretation
ニ it ホ means ヘ of
ト the チ to リ what

トthe □broader **ハ**interpretation ヘof リwhat **ニ**it ホmeans チto イbe

7 空欄(ア)—(エ)に入れるのに最も適した語を次の中から1つ選び、その数字を解答欄に書きなさい。ただし、同じ語が2つ以上の空欄に入ることはない。

1 around 2 into 3 on 4 to 5 with

(ア) 1 around

(イ) 5 with

(ウ) 4 to

(エ) 3 on

大学入試の変化

変化への対応 × 行きたい大学への準備

1 学期放課後講習

第 4 回 今後の勉強指針



最終回 令和 7 年 6 月 28 日（土）



難第一志望大合格

熱く真摯に頑張ろう！